

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [星槎国際高等学校] 担当教諭名 [吉田 真由美] (1-3年 有志13名)

交流相手国 [カナダ]

海外学校名 [Nipigon-Red Rock District High School] 担当教諭名 [Colleen Rose]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	特別活動	アートマイルプロジェクト	43
	美術	トーテムポールを作ろう	5
	英語	英語レシピでカナダのお菓子をつくろう 英語で伝える日本文化	4

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Our legacy
絵に込めたメッセージ	未来に残したいもの。 私たちが大切にしている風景をとして、精神性までが伝わるように描いた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・海外のモチベーションの高さに、もっとできることがあると生徒が気づいたこと。 ・半年間かけてきたことが、一枚の絵になって完成することで、生徒たちに達成感をもたらした。 ・学校内の取り組みが、社会とつながることでより大切なことや足りないことが明確になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のエネルギーの低さ。自分を含めて教師が学校にとどまらない動きをすること。 ・SNSを使用している生徒は多いが、目の前の相手に向けては情報を発信できない。 ・活動報告を怠った。リアルタイムで進めることができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界についての知識のなさを自覚した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS・ホームページ・動画をもっと活用していく時代であることを感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	10月	・英語での自己紹介を各自作成し、掲示板に書き込む ・ビデオ撮影	英語での自己紹介文の作成には苦戦していた。相手の動画に刺激され、こちらも動画を撮影した。普段カメラに映りたがらない生徒が多かったが、みんなで協力しながら楽しくできた。しかし、次に相手から送られてきた動画のレベルが高すぎて驚愕した。	英語2 特別活動4
テーマ学習	12月	・お互いに相手国の文化について体験学習	動画を見て、相手が日本に対して非常に興味を持ってきていることを実感していた。自分たちもカナダをもっと知ろうという意識を持った。	美術5 英語2
構図決定	12月	・絵のテーマとレイアウトの話し合い	日本とカナダの大自然の共通点を見つけ、相手も描きやすい構図を意識した。途中まで動物中心の絵になりそうだったが、テーマを意識し日本の精神性をどう表すか自国について考えながら構図を考えることができた。	特別活動8
壁画制作	12月	・絵の制作	構図が決まってからも、よりよい案があれば上から描き直し、全員が全体をみながら作業することができた。	特別活動30
鑑賞・振り返り	3月 4月	・共同制作した絵の鑑賞	ねらい通り、相手も山と湖を描いてくれたことや、山に向かって前を見つめる人物を描いてくれたことに対して喜んでいて、素晴らしい出来上がりで一緒に学習できたことを誇りに感じていた。	特別活動1

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	メンバーにタイからの留学生がいて、その子が考える日本もまた独特であり、その違いは何かを考えることで理解が深まった。
異文化の理解	A	4	異文化への興味・関心が高まり、前向きに取り組むことができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	2	普段からのコミュニケーションの低さを感じる。通常の授業においてこの力の必要性をうたえていかなければならない。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	2	自分で何について調べるのかを決めることができない。SNSは生徒の方が得意だが、フォーラムに生かすことができなかった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	2	自発的なメンバー同士の話し合いが少なかった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	2	受け身的であり、最後までやり遂げる責任感が足りない。
学習を追究する意欲	A	2	与えられた課題はできるが、それだけに満足している生徒が多い。日頃からの教育活動の大切さを痛感する。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	絵を描くために調べるという切り口の方が、今回の生徒は自主的に動いた。
作品を鑑賞する力	B	4	作品の共通点や相手校の持つエネルギーを感じることができた。